

チャレンジ!

海辺の館の新展開



竹島水族館と飼育員の役割



3Kから あこがれの職業へ

「知識・経験・資格など一切ありません、水族館の飼育員になりませんか？」

もし、こう誘われたら、皆さんどうしますか？やりたいとまでは言わないまでも、楽しそうだなと思う方が多いのではないのでしょうか。

実は、一昔前まで飼育員という職業は、3K(きつい・汚い・危険)というイメージの強いものでした。しかし今日では、珍しく興味深い生き物たちの展示や女性スタッフによる華やかな海獣ショー、自然の大切さが重要視され始めたことなどから、水族館という施設が注目されるように

なり、飼育員は3Kという重いイメージからあこがれの職業へと変わりつつあります。実際、飼育技術の進歩や、飼育設備の改良などにより、飼育員の仕事に3K的な要素は薄らいできています。

また、館内で「どうしたら水族館の飼育員になれますか？」と小さな子どもから中高生、はたまた親子連れまで、幅広い年代の方たちから質問を受けることがよくあります。

このような状況の中で、水族館の役割が課題となり始めました。当館でも、「何ができるのか」「何をしたらよいのか」「市民や遠方から来館するお客さんは何を求めているのか」などを、スタッフ



うちのヌカ床 お見せします

この連載の第1回で、生命の海科学館の山中学芸員がウナギとヌカ漬けを例に★トレジャー・プラネット★の紹介をしています。

水族館でのウナギ、すなわち主役は、展示生物たちに当たります。迫力あるショーで大スター的な存在のカリフォルニアアシカの「ラック」と「ナナ」も、おいしいウナギに例えることができます。では、ヌカ漬けは何でしょうか。解説板や、水槽内で魚たちの生活場所を再現し、設置されているオブジェなどでしょう。すると、ヌカ床は水槽そのものでしょうか。水族館のヌカ床はさまざまな「美味しいウナギ」を収容しているのです。

竹島水族館では昨年より、このような水族館のヌカ漬けやヌカ床を大公開する「裏側見学会」を始めました。飼育員が普段作業している場所や水浄化装置、水槽のしくみ、未公開の飼育員オリジナルアイテムや工夫している点などを、皆さんにお見せする企画です。もちろん、主役である魚た

ちも身近に観察できますし、展示デビューを待つ裏方で生活する生き物たちも見ることができま



▲水族館裏側見学会。調餌室で魚の餌について説明をしているところ。

また、新しい試みとして、今年8月には「夜の水族館見学会」と題して、親子で好きな水槽の前で一晩泊まっていたら、普段は見ることのできない夜の魚たちの様子や暗い館内で発光する生物を観察したりする企画を行いました。

このように竹島水族館では、ただ館内で魚を眺めてもらうだけでなく、「ヌカ床」を活用した新しい企画に取り組み、水族館の役割を自問自答し、新たな道を切り開いています。